

## 地域包括ケアの推進要件に関する一研究 全国地域包括支援センター調査結果の経年比較分析を踏まえて

吉田麻衣(長崎純心大学人文学部)

潮谷有二(長崎純心大学人文学部)

永田康浩(長崎大学地域包括ケア教育センター)

奥村あすか(長崎純心大学人文学部)

宮野澄男(長崎純心大学客員教授)

HP <http://www.n-junshin.ac.jp/cm/w/>

Facebook <https://www.facebook.com/cm.w.n.junshin>

- H26調査及びH28調査の地域包括ケアの推進要件に関する自由記述について、宮野ら(2014)、吉田ら(2017)は、樋口(2004)が開発したKH Coderを用いてテキストマイニングを行い、地域包括ケアの推進要件に係るキーワードを推察している。

表 I - 1. 地域包括ケアの推進要件に係るキーワード

H26調査(宮野ら, 2014)		H28調査(吉田ら, 2017)	
「自助」「互助」「共助」	「情報」「共有」	「自助」「互助」	「情報」「共有」
「地域」「ケア」「会議」	「共通」「認識」	「地域」「ケア」「会議」	「共通」「認識」
「開催」	「マン」「パワー」	「開催」	「人材」「育成」「発掘」
「顔」「見える」「関係」	「個別」「ケース」	「顔」「見える」「関係」	「個別」「ケース」
「社会」「資源」「開発」	「地域」「包括」「ケア」	「社会」「資源」「開発」	「地域」「包括」「ケア」「必要」
「地域」「住民」	「関係」「機関」	「地域」「住民」	「思う」
「民生」「委員」	「医療」「介護」「連携」	「民生」「委員」「自治」	「関係」「機関」「連携」
「地域」「包括」「支援」	「ネットワーク」「構築」	「支援」「センター」	「医療」「介護」「福祉」「連携」
「センター」		「若い」「世代」	「ネットワーク」「構築」「システム」
「イン」「フォーマル」		「意識」「改革」	
「サービス」			

- 本研究では、**地域包括ケアの推進要件**について探索的に明らかにするために、両調査から得られた自由記述によるテキストデータの比較分析を行った。

## I. 研究の背景と目的

- 平成23年の介護保険法の改正(「介護サービスの基盤強化のための介護保険法等の一部を改正する法律」)に加え、平成26年の「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律(医療介護総合確保推進法)」の制定を受け、全国の市区町村において地域包括ケアシステムの体制整備が進められている。
- これらの政策状況を視野に入れ、長崎純心大学医療・福祉連携センターでは、平成26年2月(以下、H26調査という。)と平成28年4月(以下、H28調査という。)に全国の地域包括支援センターを対象に調査を行った。

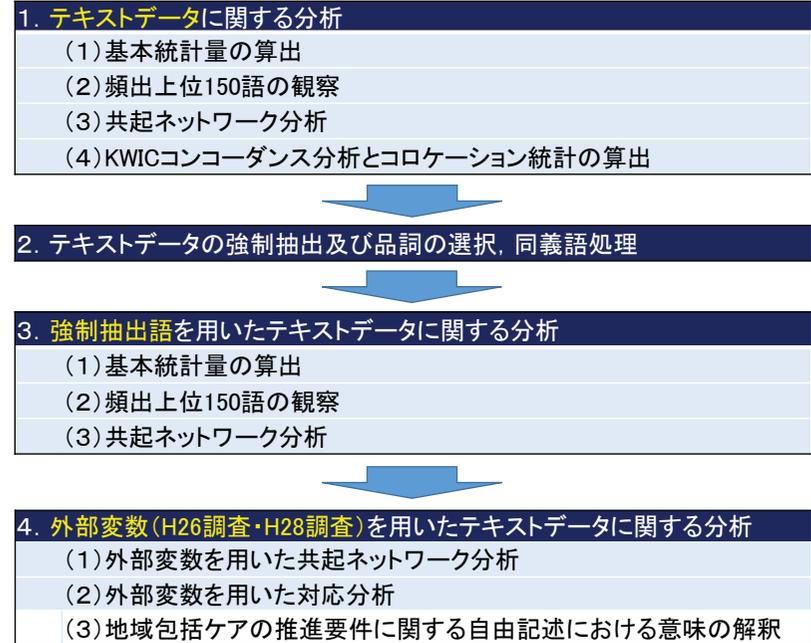
## II. 方法

	H26調査	H28調査
1. 調査対象者	全国の地域包括支援センター(サブセンター・ランチ含む)4,834か所に配置されている社会福祉士またはそれに準ずる者	全国の地域包括支援センター(サブセンター・ランチ除く)4,622か所に配置されている社会福祉士またはそれに準ずる者
2. 調査方法	質問紙を用いた自計式の郵送調査法	
3. 調査期間	平成26年2月6日から2月末日	平成28年4月4日から4月末日
4. 回収率	25.2%(1,217件)	21.2%(981件)
5. 倫理的配慮	あらかじめ、調査対象者に調査実施に対する承諾を得た上で、調査を実施するとともに、分析においては、調査対象者や対象となった地域包括支援センターを特定することができないように、必要に応じて固有名詞や地名等のマスキングを行った。	

## 研究のフロー

	H26調査	H28調査
6. 分対象数	自由記述式の回答(n=773)からなるテキストデータ	自由記述式の回答(n=491)からなるテキストデータ
7. 外部変数名	H26調査	H28調査
8. 分析方法	<p>(1)本研究では、「あなた(回答されている方)は、地域包括支援センター圏域において地域包括ケアを推進していくにあたり、何が必要だと思われますか。ご自由に記入下さい。」という問いに対するH26調査(n=773)及びH28調査(n=491)の自由記述式の回答を結合させたテキストデータ(1,264件)を分析対象とした。</p> <p>(2)分析方法は、KH Coder(Ver.2.00f)を用いたテキストマイニングによって、計量的にテキストデータの分析を行った。具体的な方法については、潮谷(2012)、樋口(2014)を参考にしつつ、次の研究プロトコルの通りに行った。</p>	

5



6

## III. 結果

### 1. テキストデータに関する分析結果

表Ⅲ-1. 基本統計量

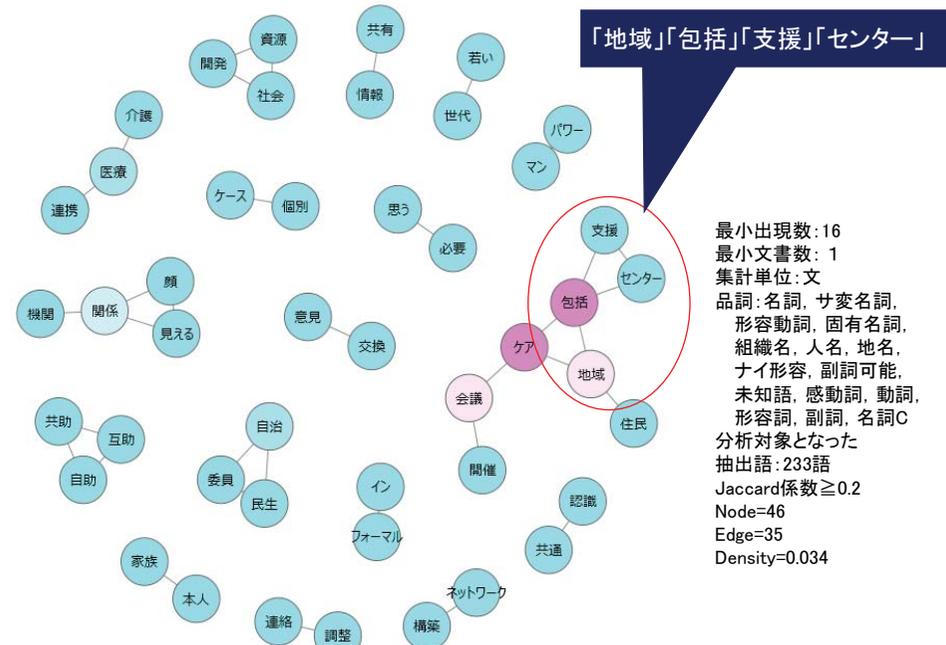
総抽出語数(使用)	54,274 (24,609)
異なり語数(使用)	2,930 (2,451)
抽出語の出現回数の平均	10.04
抽出語の出現回数の標準偏差	50.46
集計単位	文 ケース数 2,678
	段落 ケース数 1,264
	H5 ケース数 2

表Ⅲ-2. 頻出上位50語の抽出語リスト

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
地域	1,466	機関	288	会議	151	人	113	顔	87
包括	539	理解	256	福祉	148	専門	112	行う	86
連携	522	介護	246	構築	141	職員	110	活動	84
住民	479	資源	236	事業	140	協力	109	確保	81
必要	479	行政	230	考える	135	生活	102	情報	81
ケア	391	社会	223	センター	130	システム	93	業務	78
関係	349	サービス	214	意識	129	見える	92	共有	77
医療	327	課題	192	体制	119	職種	91	認知	71
思う	316	ネットワーク	165	把握	117	周知	89	市	70
支援	306	高齢	162	推進	114	開発	87	強化	68

7

### 1. テキストデータに関する分析結果



図Ⅲ-1. 抽出語の共起ネットワーク分析の結果

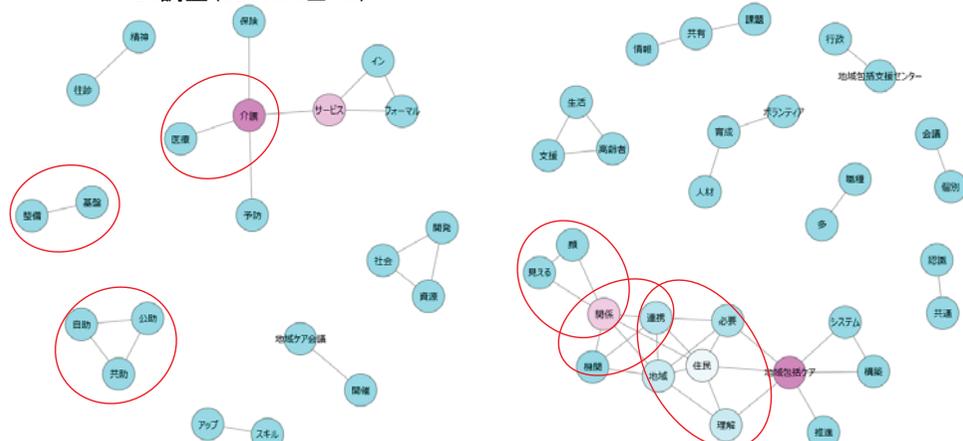
8



#### 4. 外部変数を用いた地域包括ケア推進要件テキストデータに関する分析結果

H26調査 (Jaccard ≥ 0.2)

H28調査 (Jaccard ≥ 0.2)



図Ⅲ-3. H26調査の特徴語の共起ネットワーク分析の結果

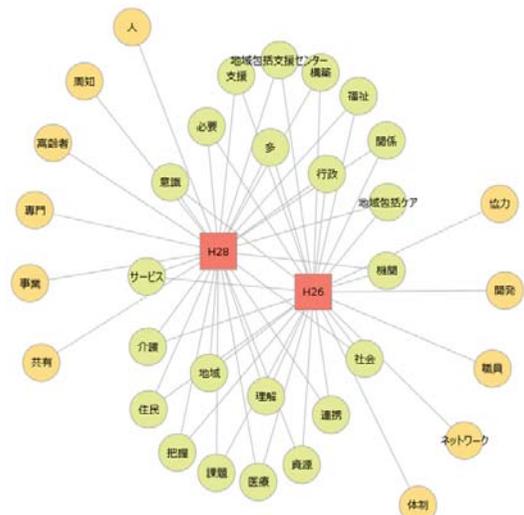
図Ⅲ-4. H28調査の特徴語の共起ネットワーク分析の結果

**H26調査:** 「医療」「介護」「介護」「サービス」「基盤」「整備」「介護」「保険」「介護」「予防」「社会」「資源」「開発」「自助」「互助」「共助」, 等

**H28調査:** 「地域」「住民」「理解」「必要」「関係」「機関」「連携」「顔」「見える」「関係」「ボランティア」「育成」「共通」「認識」「情報」「共有」「課題」, 等

- 地域包括ケアの推進要件として、H26調査では、基盤整備に関する内容、H28調査では、地域住民を含めた関係機関との連携やそれに伴う情報共有での課題に関する内容が見られ、経年的な変化があることが推察できた。

#### 4. 外部変数を用いた地域包括ケア推進要件テキストデータに関する分析結果



最小出現数: 18  
 最小文書数: 1  
 集計単位: 段落  
 品詞: 名詞, サ変名詞, 形容動詞, ナイ形容, タグ, 名詞C  
 分析対象となった抽出語: 162語  
 共起関係の種類: 語-外部変数・見出し: 経年比較  
 Jaccard係数 ≥ 0.2  
 Node=35, Edge=55, Density=0.092

<b>共通</b>
「住民」「意識」「理解」「資源」「課題」「把握」「連携」等
<b>H26調査</b>
「協力」「開発」「職員」「ネットワーク」「体制」等
<b>H28調査</b>
「人」「高齢者」「専門」「事業」「周知」「共有」等

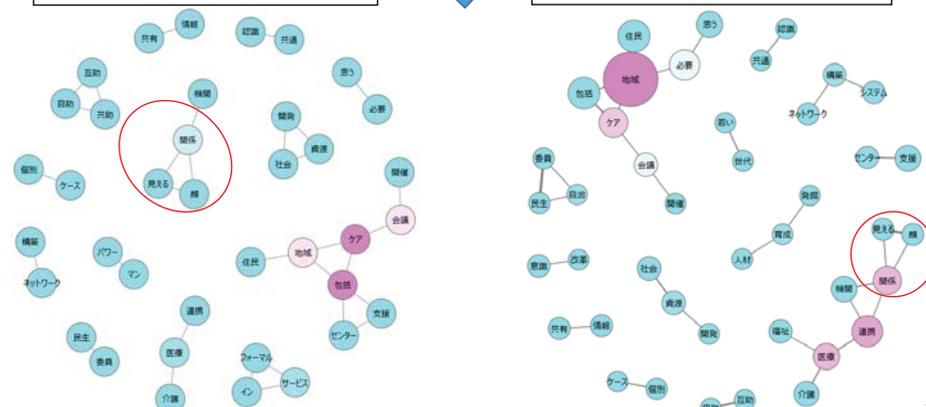
図Ⅲ-7. 外部変数を用いた共起ネットワーク分析の結果

- 地域包括ケアの推進要件として、共通して住民の意識や理解を求めるもの、把握や連携に関する内容、H26調査では、ネットワークや開発、体制に関する内容、H28調査では、周知や共有、高齢者に限らず人や専門職に関する内容が見られ、経年的に共通点と相違点があることが推察できた。

- なお、この分析は抽出語をH26調査とH28調査に振り分け、特徴語として明らかにしている。例えば、スライド12の結果でH28調査に出現した「顔の見える関係」は、H26調査のみのデータにおいて共起ネットワーク分析をした結果でも出現しており、頻度もH26調査の方が多い。このため、回答者の中で、出現する確率がより高い、H28調査の方に単語が振り分けられている。

H26調査 (n=773)  
 「顔」出現頻度: 49回  
 出現率:  $49/773 \times 100 \approx 約6.34$

H28調査 (n=491)  
 「顔」出現頻度: 38回  
 出現率:  $38/491 \times 100 \approx 約7.74$



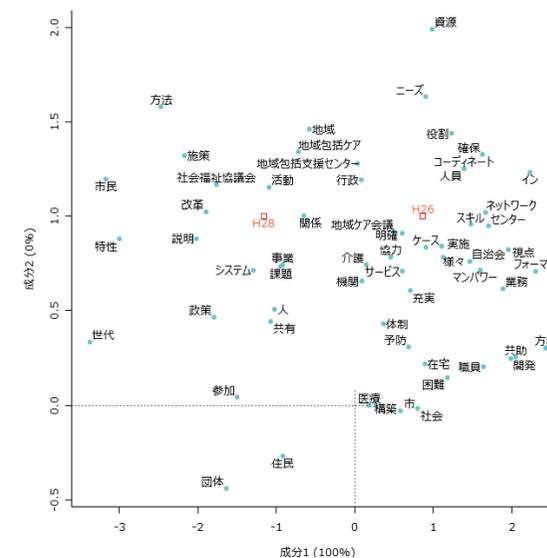
図Ⅲ-5. H26調査の共起ネットワーク分析の結果

図Ⅲ-6. H28調査の共起ネットワーク分析の結果

宮野澄男・潮谷有二・奥村あすか・吉田麻衣(2014)「地域包括支援センターに関する全国調査結果の概要-地域包括ケアの推進要件に関する自由記述の分析-」『純心現代福祉研究 第16号』, pp.87-92.

吉田麻衣・潮谷有二・永田康浩・奥村あすか・宮野澄男(2017)「平成28年度 地域包括支援センターに関する全国調査結果の概要-地域包括ケアの推進要件に関する自由記述の分析」『純心現代福祉研究 第21号』, pp.75-81.

#### 4. 外部変数を用いた地域包括ケア推進要件テキストデータに関する分析結果



最小出現数: 18  
 最小文書数: 1  
 集計単位: 段落  
 品詞: 名詞, サ変名詞, 形容動詞, ナイ形容, タグ, 名詞C  
 分析対象となった抽出語: 162語  
 分析に使用するデータの種類: 抽出語 × 外部変数: 経年比較

<b>H26調査</b>
「人員」「役割」「ニーズ」「明確」「スキル」「マンパワー」「自治会」「在宅」「困難」「確保」等
<b>H28調査</b>
「改革」「説明」「施策」「政策」「システム」「共有」「参加」「活動」「社会福祉協議会」「事業」等

図Ⅲ-8. 外部変数を用いた対応分析の結果

- 地域包括ケアの推進要件として、H26調査では、人員や体制、予防等の基盤に関する内容、H28調査では、説明や共有、改革や施策、等の働きかけや政策に関する内容が見られた。

## IV. 考察

- 地域包括ケア推進要件を明らかにするためにテキストマイニング分析を行った結果、地域包括ケア推進要件に関するキーワードを各年度で整理することができた。
- これらの結果から、地域包括ケアの推進要件として、
  - ・H26調査では、医療と介護の基盤整備、スキルアップ、職員、人員、体制に関する内容、
  - ・H28調査では、情報共有や周知、説明といった連携に関する内容及び、改革、施策、等の政策に働きかけに関する内容
 等が見られ、経年的な変化があることが推察できた。

表IV-1. 分析から得られた地域包括ケア推進要件に関するキーワード

	H26調査		H28調査	
各年度の特徴語を用いた共起ネットワーク分析結果	「介護」「予防」 「医療」「介護」 「基盤」「整備」 「介護」「保険」	「自助」「互助」「共助」 「地域ケア会議」「開催」 「社会」「資源」「開発」 「スキル」「アップ」	「顔」「見える」「関係」 「人材」「育成」 「ボランティア」「育成」 「地域包括ケア」「システム」 「構築」	「地域」「住民」「理解」 「関係」「機関」「連携」 「共通」「認識」 「情報」「共有」「課題」
外部変数を用いた共起ネットワーク分析結果	「協力」 「開発」 「職員」	「体制」 「ネットワーク」	「人」 「高齢者」 「専門」	「事業」 「周知」 「共有」
外部変数を用いた対応分析結果	「人員」 「役割」 「マンパワー」 「ニーズ」 「明確」	「在宅」 「困難」 「確保」 「自治会」 「スキル」 等	「改革」 「施策」 「システム」 「社会福祉協議会」 「世代」	「事業」 「説明」 「共有」 「参加」 「活動」 等

17

## IV. 考察

- 今後の課題として、本研究の結果を踏まえて、H26調査とH28調査の共通点や相違点をより具体的に明らかにするために、各年度の特徴的な語や共通する語を含む自由記述を抽出し、意味の解釈を行う必要があることを指摘しておく。

### 文献

- 樋口耕一(2004)「テキスト型の計量的分析-2つのアプローチの峻別と方法-」『理論と方法』, 19(1), pp.101-115.
- 樋口耕一(2014)「社会調査のための計量テキスト分析-内容分析の継承と発展を目指して-」ナカニシヤ出版.
- 宮野澄男・潮谷有二・奥村あすか・吉田麻衣(2014)「地域包括支援センターに関する全国調査結果の概要-地域包括ケアの推進要件に関する自由記述の分析-」『純心現代福祉研究 第18号』, pp.87-92.
- 潮谷有二(2012)「社会福祉士制度の見直しに関する実証研究-社会保障審議会福祉部会における議事録の基礎的分析を通して-」一般社団法人日本社会福祉学会 編『対論 社会福祉学3 社会福祉運営』, 中央法規出版, pp.281-324.
- 吉田麻衣・潮谷有二・永田康浩・奥村あすか・宮野澄男(2017)「平成28年度 地域包括支援センターに関する全国調査結果の概要-地域包括ケアの推進要件に関する自由記述の分析-」『純心現代福祉研究 第21号』, pp.75-81.

※ 本研究は、文部科学省の「平成25年度 未来医療研究人材養成拠点形成事業【テーマB】リサーチマインドを持った総合診療医の養成」に係る研究成果の一部である。